料① 令和6年度 伊那市立西箕輪中学校評価表 学校内部評価【職員版】;評議員の方の評価(A:十分達成された B:ほぼ達成された C:不十分であった) 職員自己評価 (a:十分達成された b:ほぼ達成された c:不十分であった)

学校目標		重点目標(中期長期的目標)	総合評価		î
	授業を学校づくりの根幹と考える学校		心 口 町 川川		
「剛健質実」 〜思いやりのある自立した生徒〜	今年度の重点目標		成果と課題	評価	改善策・向上策
学校教育目標	一人になれる ならない しない 生徒を目指して	①「指導の前に理解」を基盤とし、生徒理解に努める。	<ul><li>○生徒一人一人に寄り添い、関係づくりに努めた。また、頭ごなしに指導するのではなく、全 徒理解を心がけた。</li><li>○困っている生徒に対して、チームで支援できるように連携できた。これからも生徒を取り く状況から関係職員で理解を深めていけるようにしたい。</li></ul>		・登校しない生徒に対して、SSWや医療と連携し、多数の目からの生徒理解につな げたい。担任の苦労に寄り添い密に情報共有しながら共に生徒のために支援する 。 ・今後も担任や関係する職員に任せるのではなく、チームで解決に向かうように心 がける。
○こつこつ勉強しよう。:自分の思いを伝えながら納得するまで学ぼうとする姿 ○厳しく鍛えよう。:先入観を捨て、互いを大切にしながら、集団を高めようとする姿。		②「主役」である生徒が主体性を発揮するための支援、応援を行う。	<ul><li>○1学年でエンカウンターを行い集団において主体性を発揮しやすい関係づくりを心がけた。</li><li>○生徒が自己有用感をもてるよう、得意なことで人の役に立てられたと思えることを機会を見つけて生徒に頼むなどした。</li><li>●集団の中で主体性を発揮できずにいる生徒に対して、十分な手だてができないときがある。</li></ul>	A a	・それぞれが主体性を発揮でき、安心できる集団づくりを心がけ、エンカウンター や生徒会活動など、それぞれの個性が発揮しやすい活動を積極的に取り入れてい く。
○良い友だちをつくろう。:自己を厳しく鍛え、切磋琢磨しながら成長しようとする姿。		③家庭との信頼関係の構築、地域での学習展開、小学校との連携 を図る。	<ul><li>○小学校相談員と月に1度の情報交換会を行い生徒の背景を理解する努力をした。医療とカンファレンスを行いながら、連携して支援した。</li><li>○小学校との合同研修で各教科話ができてよかった。もう少し時間があると良い。</li><li>○地域の方を講師とし、郷土料理や浴衣の着付けを通して地域の文化に触れる授業を行った。</li></ul>	A a	<ul><li>・引き続き、小学校や保護者との情報共有は密に行う。</li><li>・西箕輪コミュニティスクール等での情報交換を通して、地域での学習展開ができそうな活動を校内に発信していく。</li></ul>

○地域の方を講師とし、郷土料理や浴衣の着付けを通して地域の文化に触れる授業を行った。						
領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
	教育課	学び合いの質を高める	<ul><li>○ 学び合いが必要な場面設定の工夫(導入・追究・まとめ)</li><li>○ 4つの「K」を意識した学び合いの場面設定(比べる・検討する・関連付ける・見方を変える)</li><li>○ インクルーシブ ○ I C T の有効活用</li></ul>	○4Kは意識しながら授業ができた。 ○英語において生徒同士がグループやペアで話し合う機会を意図的に取り入れることで、仲間 の良い点を認め、それを自分の作文にも活かしていく姿が見られた。		・引き続き、単元や授業の中で意図的に学び合いが必要となる場面を設ける。特に 4つのKは本校として長年積み重ねてきた重点テーマの一つ。 ・インクルーシブの研究は来年度も研究の柱の一つとして考えていきたい。
	程	道徳の充実	<ul><li>○ 教育課程研究協議会に向けて</li><li>○ 全体計画、年間計画の整備</li><li>○ 発問、問い返し、思考ツール</li></ul>	○全体計画や年間計画を整備し。年度当初に全体で共有できたことでどの学年も道徳の授業に 力を入れていたように感じる。教育課程で古越先生が提案してくれた実践を学校全体で生か していくことが大切。	A a	・今年度の教育課程研究協議会を通して作成した西箕輪中学校の道徳の指導計画や 実践を、より学校全体に浸透させていく。
教育活動	習	自己表現力の育成	○表現したくなるような課題を追究しているか。 ○表現力を高めるための手だて(言語活動、グループ学習、学び合い)の工夫ができたか。 ○ICT機器を活用して、生徒の表現力を引き出したり伸ばしたりすることができたか。	○サマーレポートは、テーマ設定から計画・実践・発表まで時間をとって行ったことで、昨年度よりも内容も良くなっていたように感じた。続けていくことが大切。どんどん進化している。	A a	・サマーレポートを通してさらに自分の「好き」を深める工夫と、それを仲間へど う伝えるかの指導もしていく。
	指導	自ら考えて取り組む家庭学習の実 践	<ul><li>○ 自分にとって必要な学習を行う家庭学習</li><li>○ 学習計画など支援の仕方・長期休業、テスト前の学習</li><li>○ サマーレポートは、生徒一人一人が主体的に追究する姿につながったか。</li></ul>	<ul><li>○テストのふり返りシートは、できるだけ書きやすいものに工夫できた。</li><li>●「宿題だ」と言わないと家庭学習をしてこない生徒が多いように感じる。「やりたくなる学習」とは何なのかを模索したい。</li></ul>		・自宅ではできればゆっくりしたいと思っている生徒に対して家庭学習を「やりたくなる」と思わせることは難しいということを前提に、取り組みに対するハードルが下がるように手だて行う。 例)小テスト、家庭学習への評価 など
	活	○具体的な目標をもち意欲的に活動するよう指導できたか。 目標と規律のある活動 ○時間や学校のきまりを守り、活動するよう指導(「時を守り,場を清め,礼を尽くす」指導)ができたか。		○目標の達成に向けて、日々の行動に落とし込むことを心がけた。 ●下校時刻を守らない部があり、何回か指導した。部活動内だけでなく、校内の挨拶の声がもっと響くと良い。	A b	・様々なモチベーションで入部している生徒たちに対して、より良い部活動の在り 方について顧問でも検討していく。 ・部長会を中心に、生徒たちで下校時刻等に対して呼びかけできるようにする。
	動	活動時間の設定	○スポーツ文化活動運営委員会の活動が有効に働いているか。 ○部活動強化月間、夏期と冬期の日課、朝部活の廃止、週一休養日の設定、延長部活の運営は適切 であったか。	<ul><li>○生徒にとって負担になりすぎない適正な時間で活動できた。</li><li>○スポーツ文化活動運営委員会では、今後の地域移行に向けて良い情報交換ができた。</li></ul>	В <b>а</b>	・部活動の地域移行に向けて、今後も伊那市の方針を受けてより良い西箕輪地区の スポーツ文化活動になるよう柔軟に対応していきたい。
	生徒	課題に主体的に取り組む生徒の育成	<ul><li>○規律ある学校づくり(生徒会3本柱活動)に関して問題解決ができるよう指導の工夫ができたか。 (時間、給食、清掃)</li><li>○いじめ・仲間外しでさびしい思いをすることがない学校を作ろうとする生徒の意識を高める指導ができたか。 (西中人権宣言の趣旨を活かして)</li><li>○自分の将来に夢をもち、その実現に向かって進路を具体的に考えられる指導ができたか。</li></ul>	<ul> <li>○服装に関するルールを緩和したことで「生徒が自ら考えて自分の行動を決める」場面が多く見られたように思う。</li> <li>●3本柱の意味が薄れつつあるように感じる。</li> <li>●時間に関しては、学校全体がルーズになっていると感じる。自由と規律をどのように共存させ指導していけばよいのか難しさを感じている。</li> </ul>	B b	<ul><li>・服装をはじめ、今後も自分の行動を自分で決める経験を多くしたい。</li><li>・まずは職員が、授業や学活に遅れないように心がける。</li><li>・三本柱に対する意識の温度差や定義の違いがなるべく生じないように委員会で呼びかけや評価等を行う。</li></ul>
	指導	共通基盤に立った生徒指導	<ul> <li>○実態に応じて具体的な指導項目を決め、学年全体で指導できたか。</li> <li>○「報・連・相」を日常的に行い、生徒一人ひとりの状況について共通理解ができたか。</li> <li>○学校生活アンケートや、ケース会議、教育相談、その他学校の教育環境が、いじめ・仲間外しの早期発見に有効に機能したか。</li> <li>○いじめ・仲間外しの発生に関しては、発生の事実を迅速に職員に周知し、共通理解のもと指導が行われ、再発防止に的確に取り組むことができたか。</li> </ul>	<ul><li>○学年経営案を各学年で作成し、それをもとにそれぞれの学年で指導・支援にあたり、早めの情報共有に努めた。</li><li>○学校生活アンケートや1・2学期の個人面談、日々の観察を通して、いじめや仲間外しの早期発見に努めた。</li></ul>	B b	・これからも職員会や学年会での情報共有を基本としながら、気軽に報告・連絡・相談ができるような雰囲気づくりに努めたい。 ・様子が気になる生徒について、担任や部活動顧問に限らず、生徒と近い距離の教員から本人の考え方や願いを聞き、理解するように努めるとともに、本人を励ます言葉や、寄り添う言葉がけを心がける。
	安全	安心で安全な学校	<ul><li>○生徒を認め、勇気づけ、ともに学び成長することに喜びを見いだす指導を実践できたか(認め、勇気づける教師の構えを持って指導に臨んだか)。</li><li>○一人一人の生徒の居場所づくり等について生徒とのコミュニケーションを十分とることができたか。</li></ul>	○生徒の居場所作りに努めた。この場所はダメ、というスタンスでなかったので、生徒も安心できたし職員も救われた部分がある。放置とは違うが、その子の居場所作りや、かかわりを大切にしていきたい。	a a	<ul><li>・引き続き、生徒一人一人の理解に努め、思いに共感し勇気づける職員集団として生徒とともにありたい。</li><li>・副担任がクラスに入るなど、学級経営のサポート体制を充実させていく。</li></ul>
学			<ul><li>○施設が安全で防災体制が整っているか。</li><li>○本校の生徒の登下校が安全にできるよう指導することができたか(交通、不審者、熊への対応等</li><li>)</li></ul>	○生徒の安全な登下校のために、熊や不審者情報があった際に職員がパトロールを行うなどした。	A a	・引き続き職員がパトロールを行ったり、地域の方と協力して生徒の登下校の安全 を守ったりしていく。
校運				<ul> <li>○PTA懇親運動は久しぶりの実施だったが、生徒・保護者・職員がともに楽しむ機会としては良かったと思う。堅苦しくないレクリエーションも「懇親」という観点では必要だと感じた。1年生保護者の出席率が低かったのは、コロナ禍でこのような活動をする経験がなかったため、関わり方がわからない(関わりたくない?)保護者が増えているのではないかと思う。</li> <li>●学校保護者アンケートの提出率が約42%。より多くの保護者の考えを聞く機会としたい。</li> </ul>	A b	<ul> <li>・PTA活動は保護者と教員が、ともにより良い学校をめざして協力する場としてつながりを大切にしたい。懇親運動は本校の伝統行事でもあり、生徒・保護者・先生が一体となれる貴重な活動。保護者にもさらに参加を呼びかけたい。</li> <li>・アンケートの内容は、職員全員にフィードバックするとともに、可能な限り地域や保護者の方にもお伝えしたい。</li> </ul>

携			
	適切な情報発信	○学校・学年・学級から積極的に必要な情報発信ができたか (紙面構成を工夫し、読んでみたくなる通信)	○保護者や地域の方に学校の様子を知ってもらうために、学校だより、学年学経 的に発信した。
研	教職員研修システムの充実	○全校研究テーマ具現を共通の目標に、課題と手だてをもって公開授業ができたか。 ○通常の職員会議を研修の場と位置づけ、学習指導・生徒指導・生徒理解を主としたか。 ○小中合同研修会では、西箕輪の子どもについて考え、小中の連携を図れたか。	<ul><li>○今年度も職員会議後の研修が充実していた。特に特別支援の生徒への理解とうついて考え合うことができた。</li><li>○小中合同研修の中で中学生が小学校へ行き、読み聞かせを行う企画が生まれる。</li></ul>
修	豊かな人間性の育成を図る学校づ くりの研究	<ul><li>○単元のまとまりの中で実現を図る、各教科の「見方・考え方」、ICT機器活用、学び合いを視点とした研究体制は有効であったか。</li><li>○生徒理解のための研修ができたか。(事例研究や不適応生徒の理解, UD研修等)</li></ul>	○学び合いの実践を、授業公開という形ではなく今年度の実践を報告する形で 告を受けて先生方の熱心な意見交換が行われ、とても好評であった。

ı			・アンケートに協力してもらえるよう、通知などを工夫する。
	○保護者や地域の方に学校の様子を知ってもらうために、学校だより、学年学級通信等を定期 的に発信した。	A b	・これからも学校・学年・学級から積極的に必要な情報を発信していきたい。
	<ul><li>○今年度も職員会議後の研修が充実していた。特に特別支援の生徒への理解と支援の在り方について考え合うことができた。</li><li>○小中合同研修の中で中学生が小学校へ行き、読み聞かせを行う企画が生まれ交流ができた。</li></ul>	b b	・研究・生徒理解・生徒指導それぞれ係の先生を中心に充実した研修になるよう、 企画運営をしていきたい。 ・小中合同研修は、教務主任が中心となり双方の希望を聞きながら実施したい。
	○学び合いの実践を、授業公開という形ではなく今年度の実践を報告する形で行った。実践報告を受けて先生方の熱心な意見交換が行われ、とても好評であった。	B b	・先生方の実践報告の時間が足りなかったので、一人一人の先生の実践について語 り合う時間を十分確保したい。